

住宅から街へ エコモデル街区 -真の目的-

「暮らしの改善+エネルギー自給圏」の創造

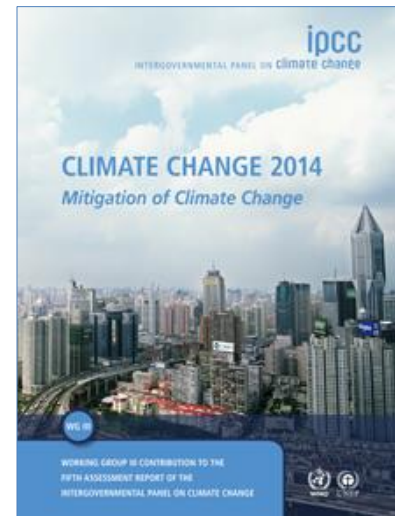
モデル街区をつくりながら、
低炭素な「金・組織・知の回し方」を試す

お金と組織の壁



お金の壁（低炭素化のコスト）

組織の壁（変化を拒む）



お金の壁
(低炭素化のコスト)

の超え方

1-1 炭素税、排出量取引、EECで競争条件を公平にする

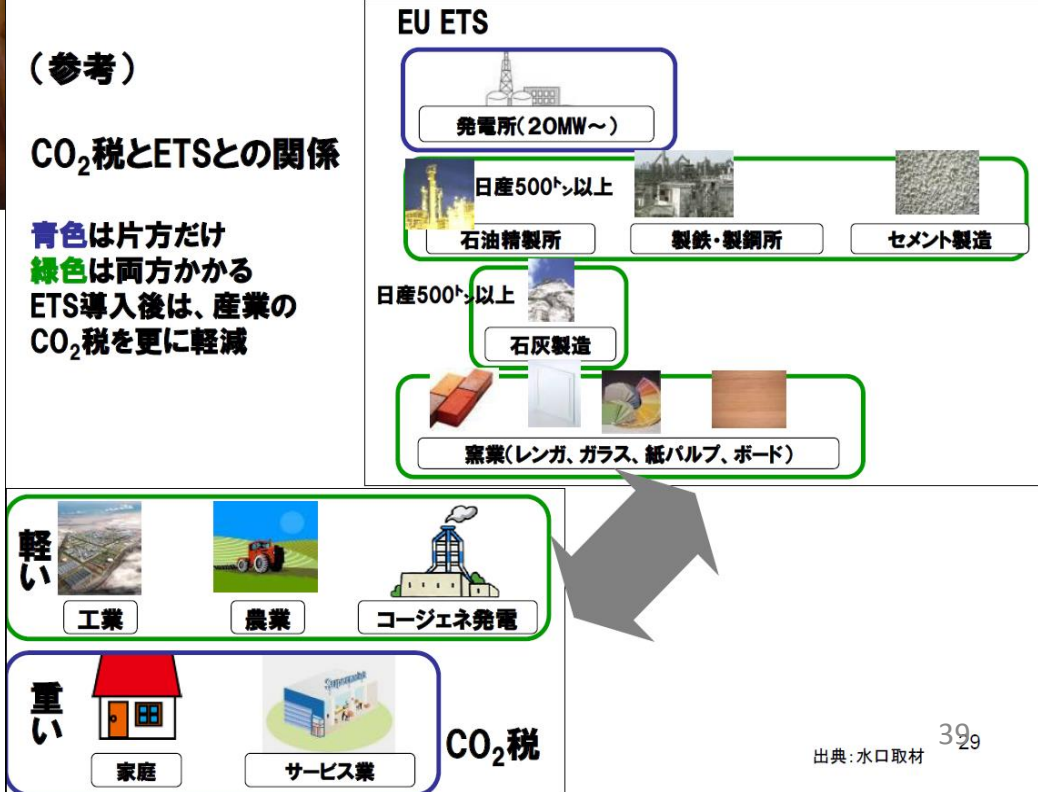
1-2 キャピタル・ゲインで元を取る

低炭素化の高コストの壁を超える

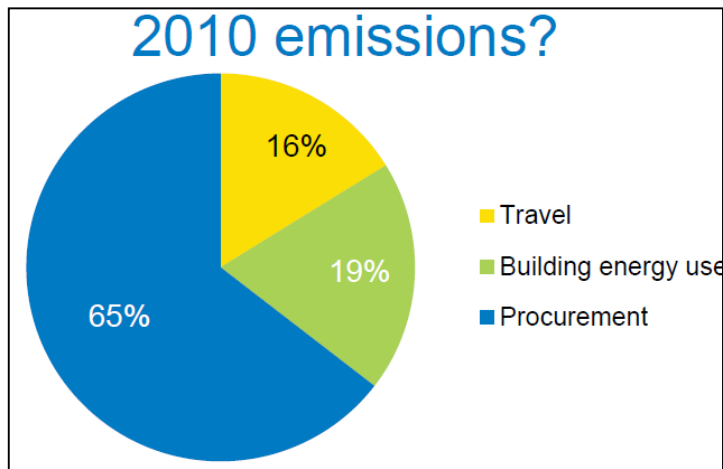
**炭素に価格を付け、課税する。これが、お金を回す出発点
(カールゲン・スウェーデン環境相、2008年6月)**



参考) 産業の競争力を維持しつつ、脱炭素化を図る工夫(下チャート)

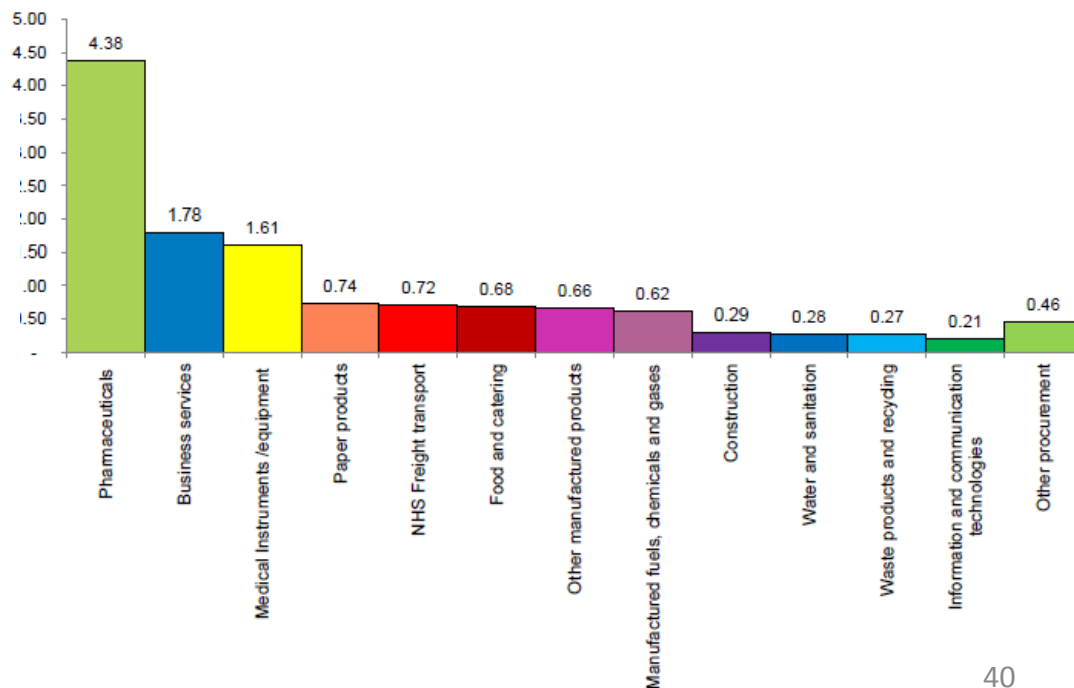


出典:スウェーデン外務省主催のプレスツアー(08年)で取材



炭素予算で管理すると分野別のCO2排出量が数字でハッキリするので管理が出来る。対策もB/Cで数字が出る。

Procurement Breakdown



NHS SDU approach

- Carbon Footprint and Consultation
- Carbon Reduction Strategy
- Future Scenarios – 2030
- Board Leadership
- MAC Curves
- Integration into regulation, reporting and improvement mechanisms
- Training Resources
- A Route Map
- Public Opinion Survey

1-1 EEC(再掲)

1-2 キャピタル・ゲインで元を取る

低炭素化の高コストの壁を超える

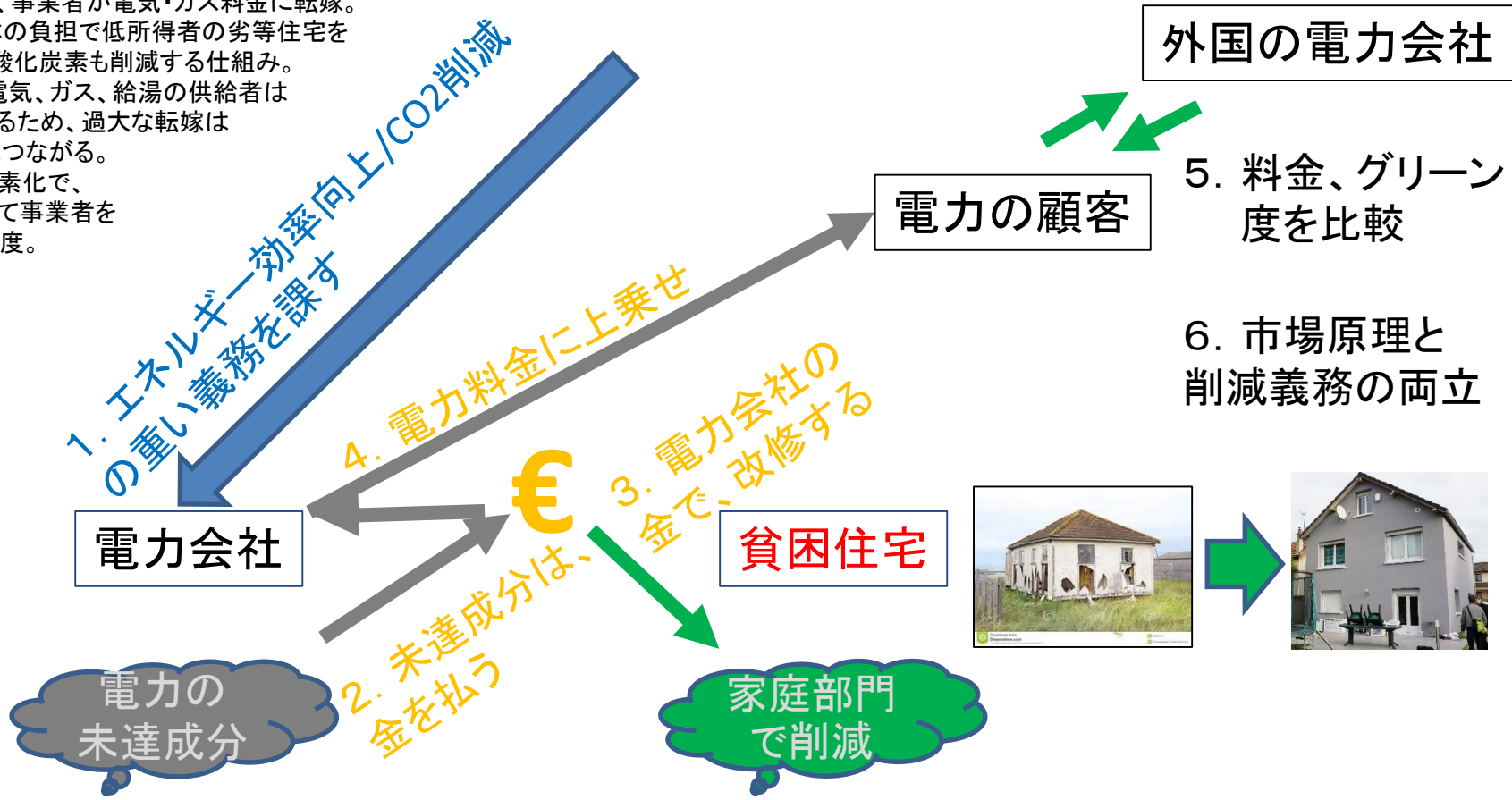
類似制度は、米加州、、、、

EECは、「電力やガスの大手事業者に対し、エネルギー効率の向上と二酸化炭素の削減で重い義務を課す。未達成分を“罰金”として取り立て、それが『もっと良い暮らしへ』プランの財源となる」(ビンセント・ペロー住宅庁広報係長)。

“罰金”は、事業者が電気・ガス料金に転嫁。消費者全体の負担で低所得者の劣等住宅を改修し、二酸化炭素も削減する仕組み。

一方で、電気、ガス、給湯の供給者は国外にもいるため、過大な転嫁は顧客離れにつながる。料金と脱炭素化で、国境を越えて事業者を競わせる制度。

EEC(エネルギー効率向上証書制度)

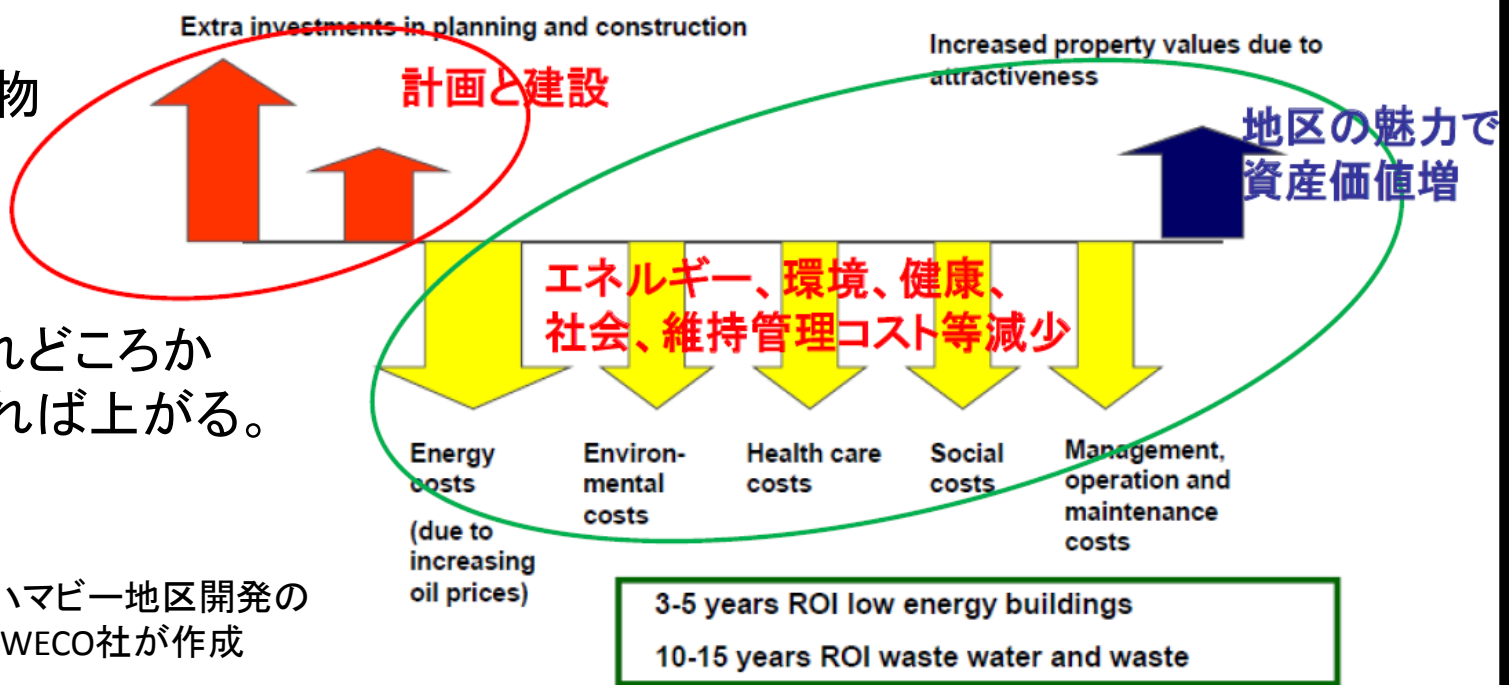


1-2 キャピタル・ゲインで元を取る

背景に

相場より5~10%高く売った(開発業者)
2-4%建設等コスト増だったが。

不動産市場の
8割超が中古建物
(日本は15%)
中古建物の
資産価値が
下がらない。それどころか
きちんと管理すれば上がる。



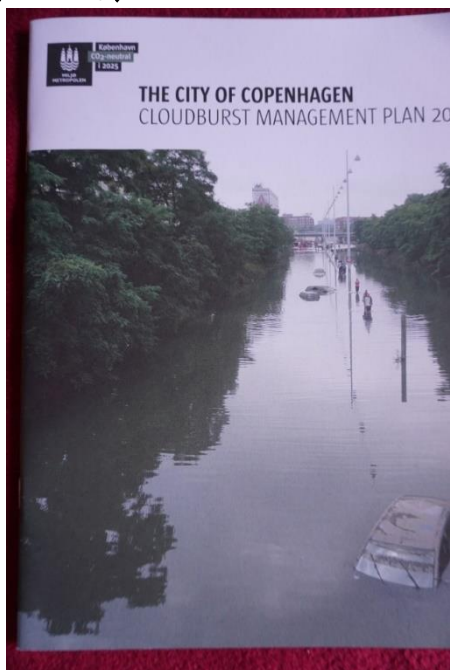
グラフは、左下写真のハマビー地区開発の際に、設計に当たったSWECO社が作成



出典: 取材より。グラフはSWECO社提供

1-2 適応税新設のコペンハーゲン市 キャピタル・ゲインで元を取る

「適応策を実施しないと、あなたたちが持っている建物の不動産価値が下がるでしょ、と市会議員に言って、適応税の新設を認めさせた」
(コペンハーゲン市役所環境部長。
2015年 取材にて)



組織の壁
(変化を拒む)

の超え方

組織の壁
(変化を拒む)

縦割りの壁

ルーチンの壁

(定型化した仕事の仕方)

2-1 縦割りの壁 個別最適性を追求



下水処理



ゴミ処理



都市計画



交通



エネルギー



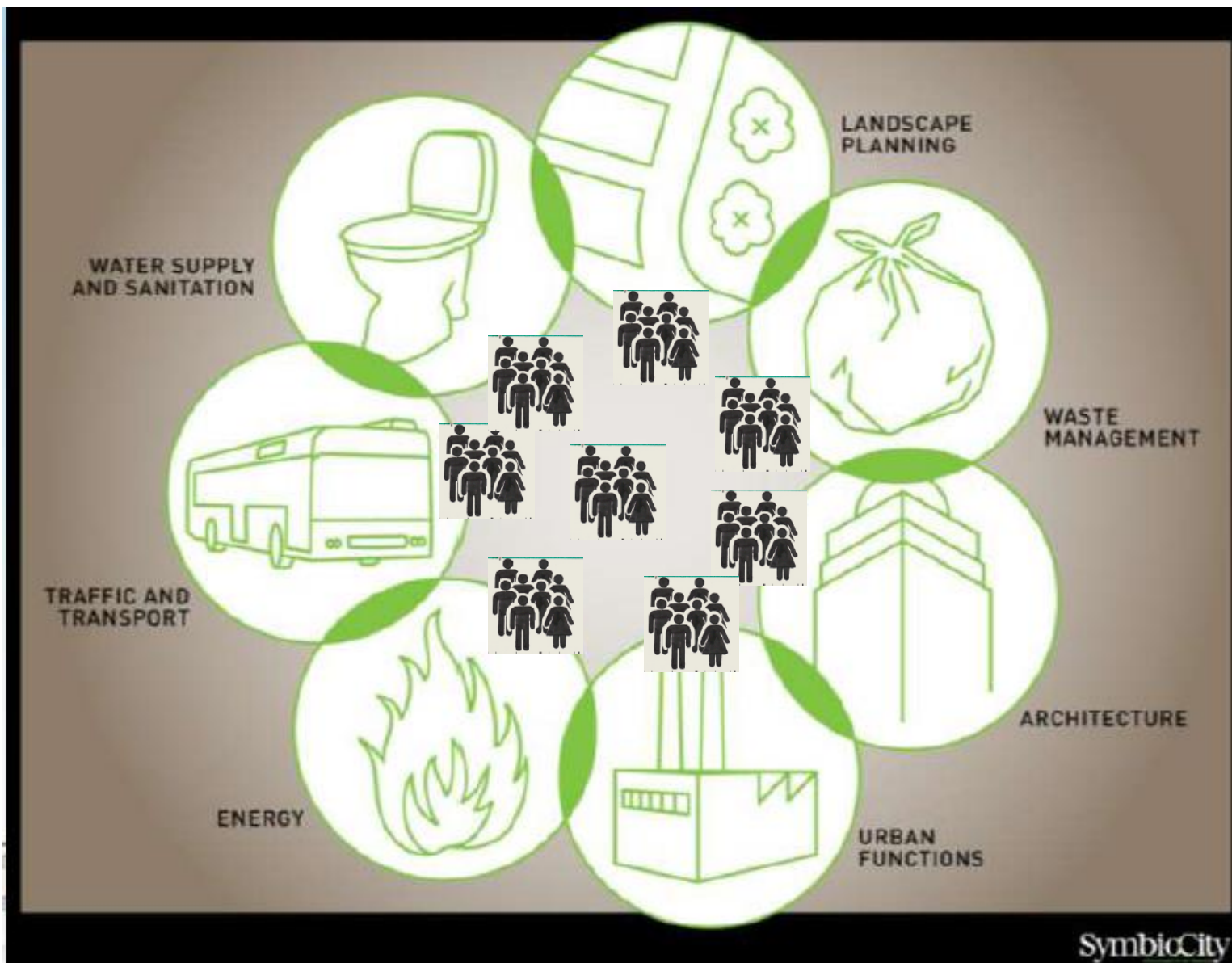
建築



工業

相互に連携が無い

2-1 相互に連携 全体最適を追求 統合的手法



2-1 実例)統合的手法 スウェーデン・スコーネ県

県の環境部＋病院部が推進

県庁環境部



県庁病院部



病院内エコノミスト

技術の加速
低／ゼロカーボン・エネルギー

エネルギー

交通

ゴミ処理

薬・管理

食(地産地消)

温暖化の適応策

Eヘルス

「持続可能な病院」プロジェクト



建築

LCB-HEALTHCARE
Procuring better building solutions

建築分野の調達(環境配慮型契約)改革



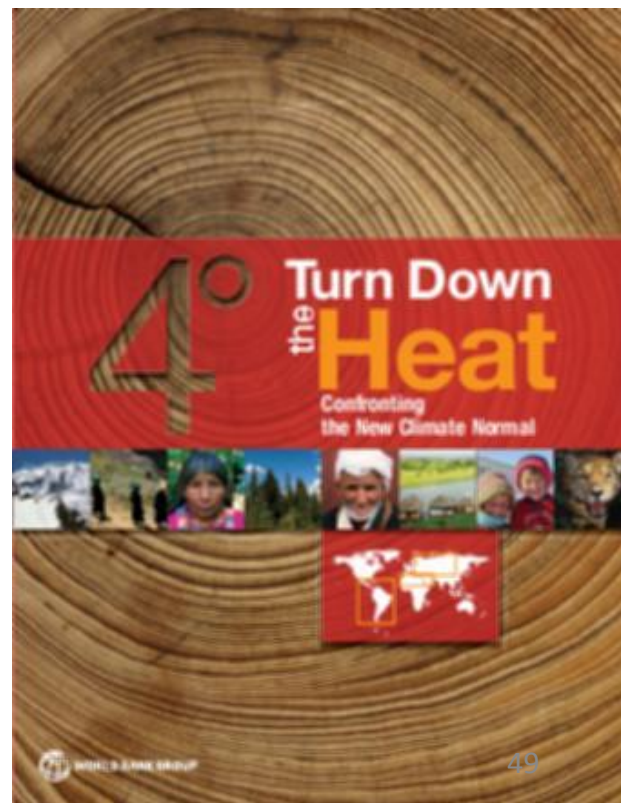
Climate Friendly Health and Care

病院＋サプライチェーン全体でのGHG削減

「縦割りを超えて、経済成長と温暖化対策を統合する。

企画調整官庁や財務省が間に入り、実施する例が世界的に増えている」

(世界銀行、2014)



統合的手法、他事例は
具体的な方法例は、資料編に

組織の壁
(変化を拒む)

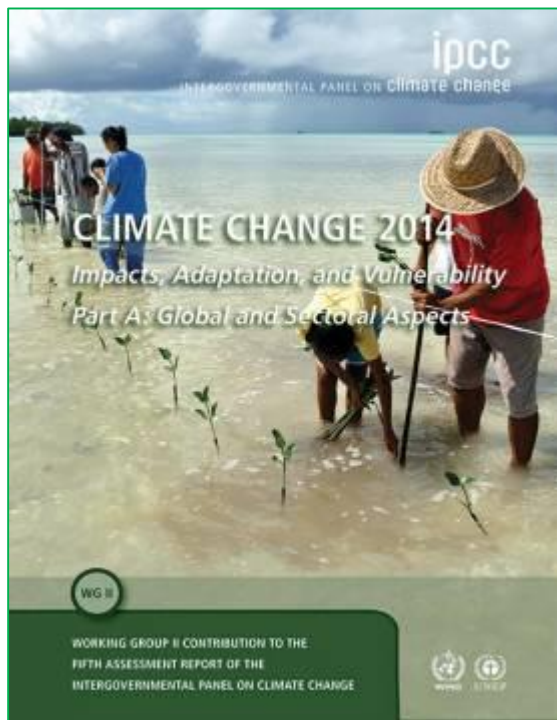
縦割りの壁

ルーチンの壁 を 超える

(定型化した仕事の仕方)

「AR4以後、都市内で実際に試し、壁に挑戦する自治体が激増した。また、それを観察分析する論文も激増した」(AR5,II)

「エネルギー、土地利用、金融、ガバナンスを変えれば、大幅削減と暮らしの改善は可能」(AR5,III)



2-1 統合的手法で縦割りを超える

2-2 ルーチン(仕事のやり方)の壁を超える

「観察分析する論文も激増」 の震源地の一つ、Drift

問題意識

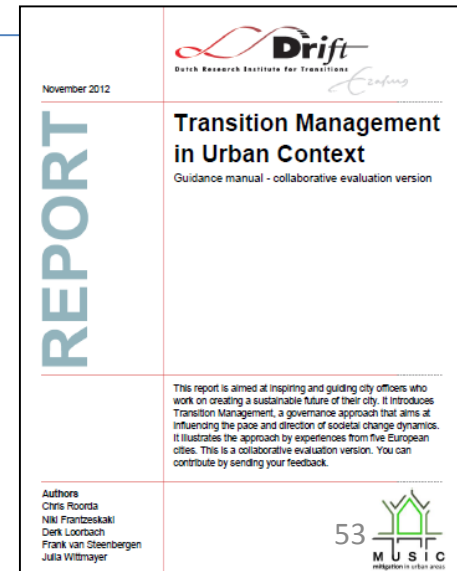
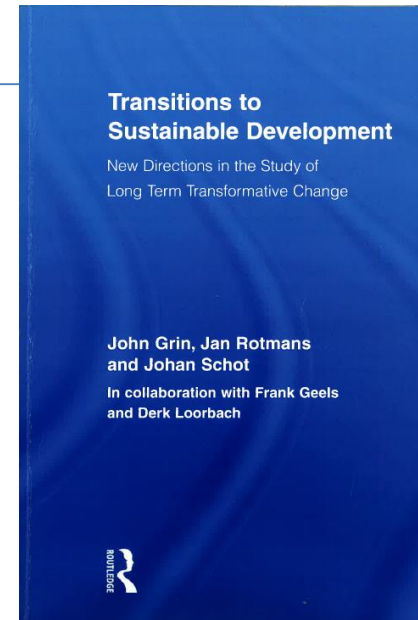
1. どんな条件が揃えば、ルーチン/組織/社会は変わるか？
2. 変化は、マネジメントできるか？
3. 小規模の社会実験で、変えられるか？

歴史

Yesと考えた気候モデラー(中)、社会学者(左)、原子力エンジニア(右)らが1990年代から取組み、2000年以降、欧州各地で実践、理論化(青)、マニュアル化(右)が始まった。



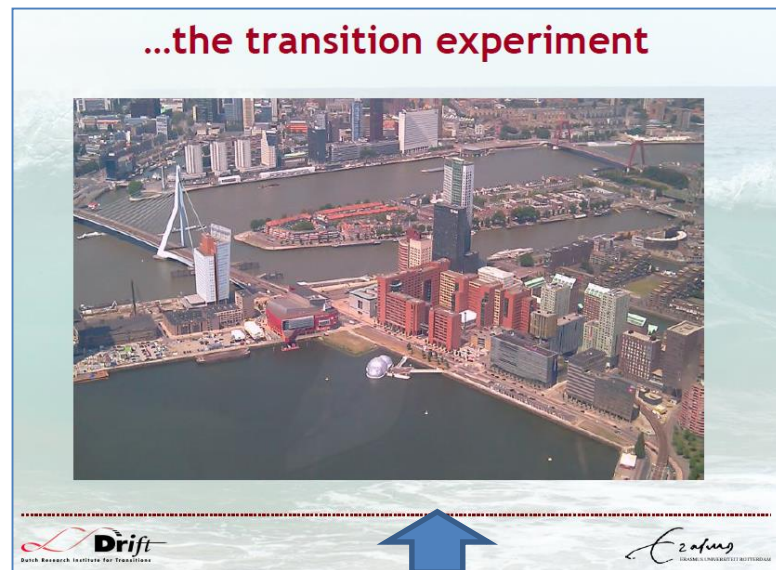
出典: Driftの取材



2-2 トランジションマネジメントでルーチン(仕事のやり方)を変える

欧州での実践例

出典: プロジェクトのHP、Drift、ロッテルダム市への取材



Transition management in Europe



港湾地区の再開発と適応策の統合(ロッテルダム市)

緩和策と都市活性化策の統合

都市地域に生物多様性を導入し、適応策とアレルギー対策を統合

地域の実情に合わせた活性化

上記3つともEUの地域間連携補助金プロジェクト

トランジションマネジメント
具体的な方法は、資料編に

3. 知を回す(金と組織の回し方)、早く共同進化する仕組み。補足は資料編で

1. テーマコミュニティでの実践者・政策形成者間の議論、学びあい、教えあい



CleanMed2016

2. 対話

政策形成者

理論の進展を知る

実践の体系化・理論の検証

研究者

行政ニーズを知る、実践を観察し、論文にする、マニュアルをつくる



出典: 現地取材

まとめ

GDPは伸ばし、GHGは減らす国々は、
暮らしを改善*することで、CO2を減らしている

* 広くて、エネルギー効率が良い家に住む。家の周りがリゾートになる。職場に近い。レジリエントでもある

モデル街区で、「金・組織・知」の回し方を
進化させている

進化を、共同で速めている